

# 写真集4

## 日帰り電車の旅

トゥール  
→ブルジュ  
→オルレアン  
→プロア  
→トゥール



トゥール駅



電車は空いている



Bourges Railway Station / ブールジュ駅

# ブルージュ観光

ブルージュの名前は「ビトゥリゲス族」からとも、ドイツ語で「城」を意味するBurg(フランス語:bourg)からとされている。

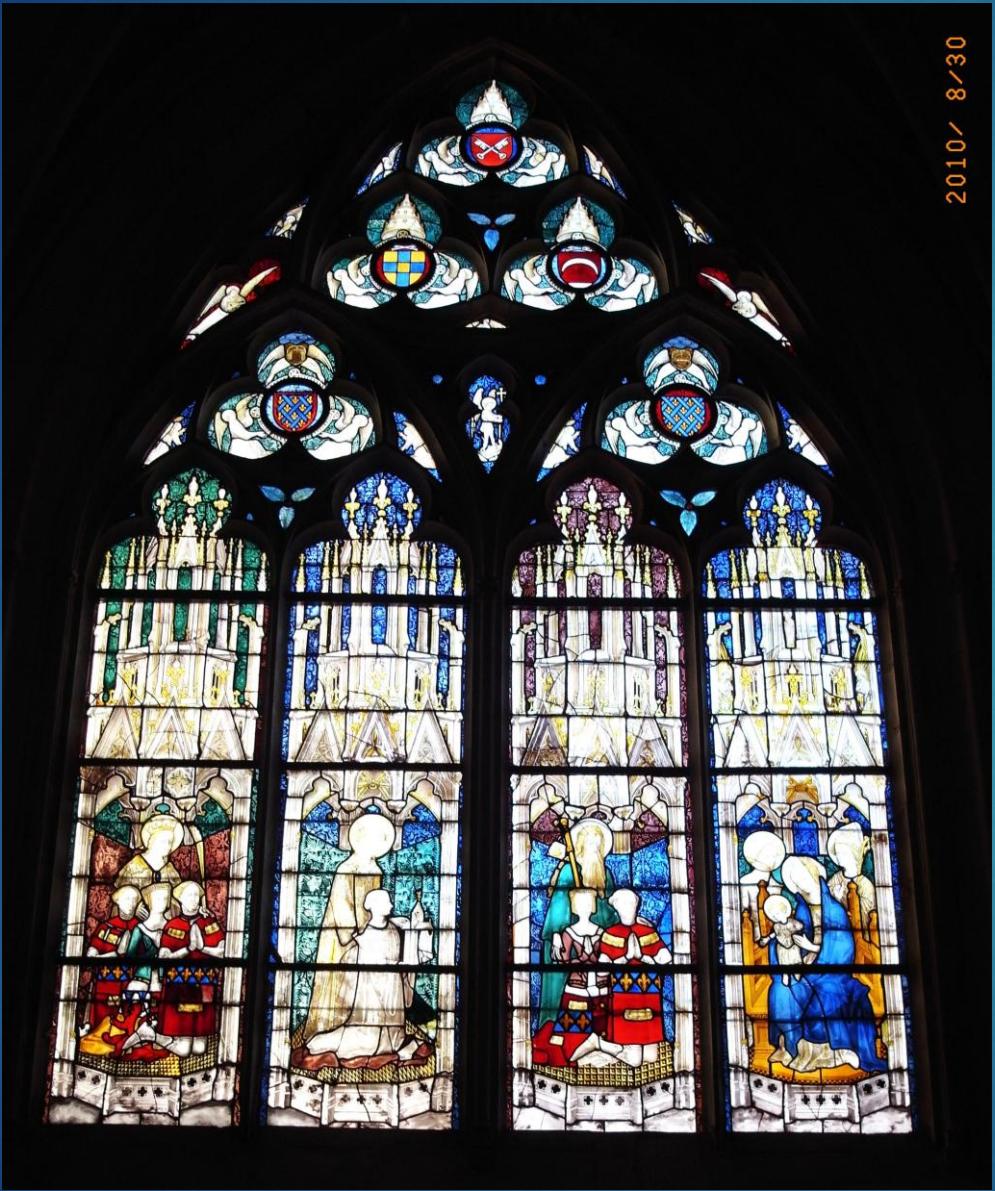




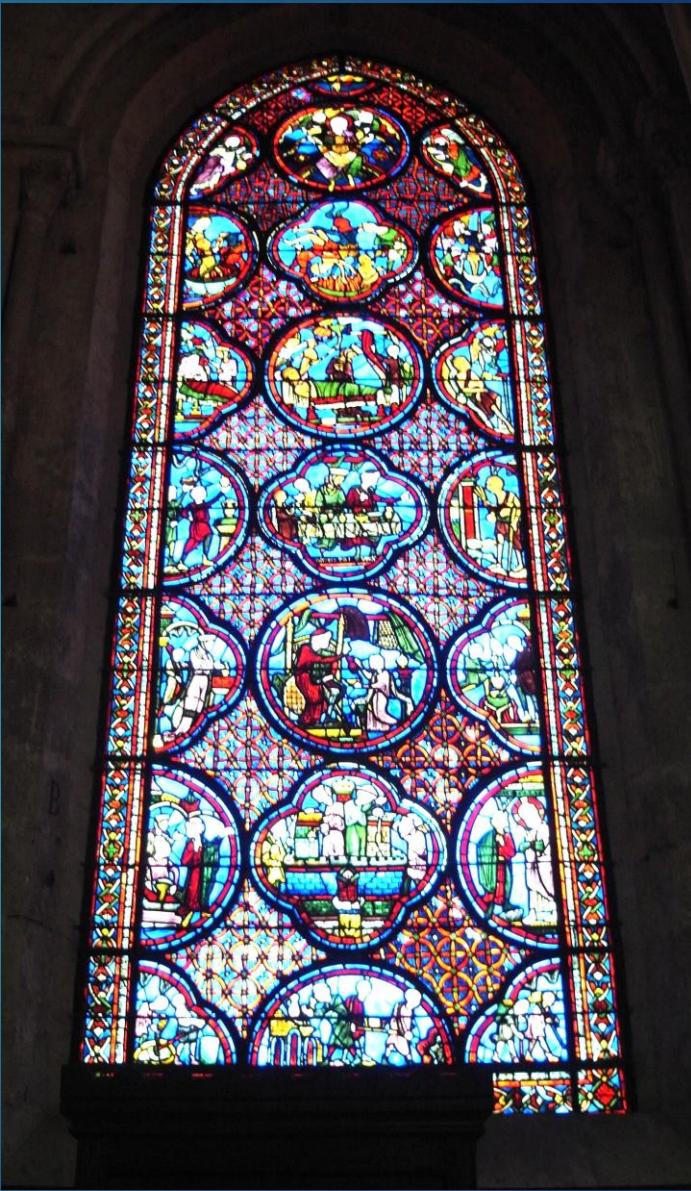
ブルジュはフランス各地からピレネー山脈を越え、スペイン北西部の聖ヤコブの聖地へと向かう世界遺産の道「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」。その巡礼路上にある。



サン・テ・ティエンヌ大聖堂は、フランス・ゴシック建築の最高傑作のひとつとされ「ブルジュ大聖堂」の名称で世界遺産に登録されています。



2010 / 8/30

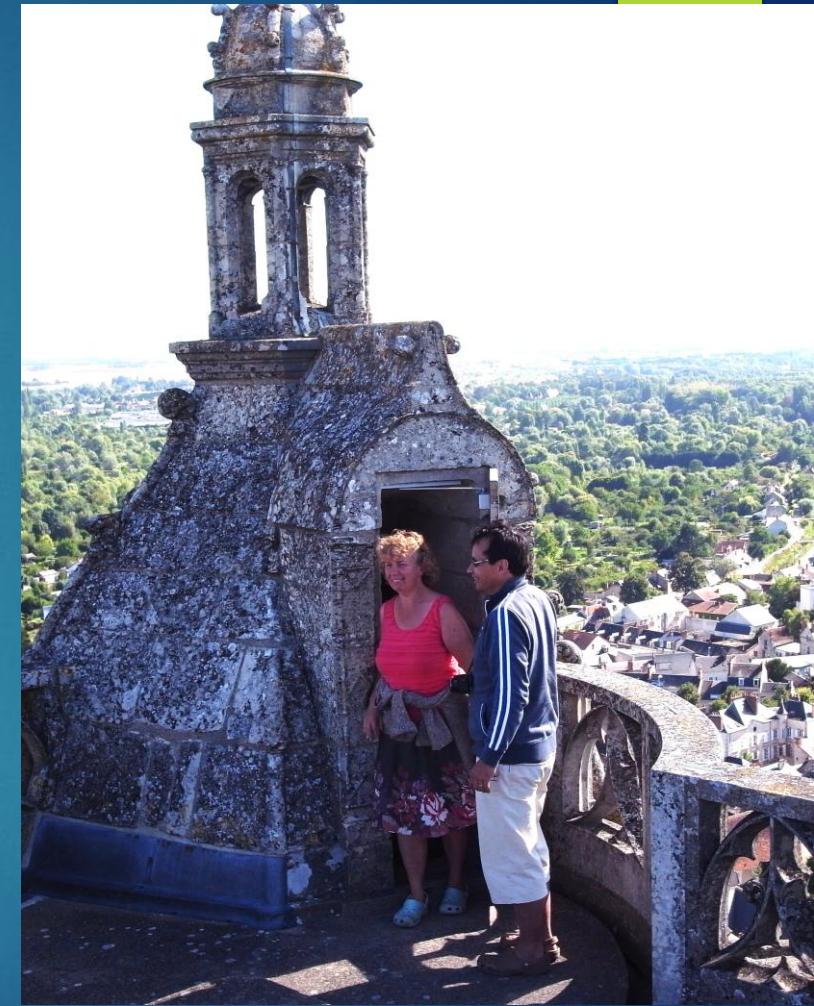




階段を登って屋上へ



屋上の出入り口







屋上からの景色は素晴らしい







2010/ 8/30



地平線が見えるに感激



ブルージュ駅に戻る途中





フラワーベッド、像、大司教の庭





2010/ 8/30

大司教の庭で一休み ブールジュ

# オルレアン 通過した



ジョルジュ・サンク橋とオルレアン大聖堂



シャルル7世戴冠式のジャンヌ・ダルク



オルレアンの少女



マルトロワ広場



オルレアンの町 ロワール左岸をのぞむ



1429年のジャンヌのランス進駐

# フロア に移動



フロア城とロアール川にかかる古い橋: ジャックガブリエル橋



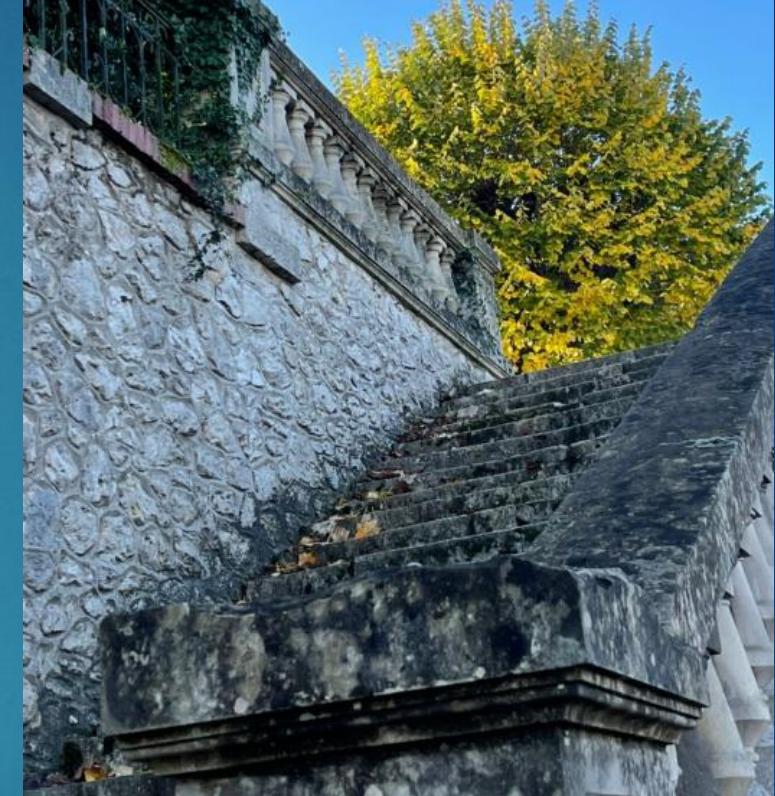
ブロア城とジャックガブリエル橋



プロア駅前



フロア駅

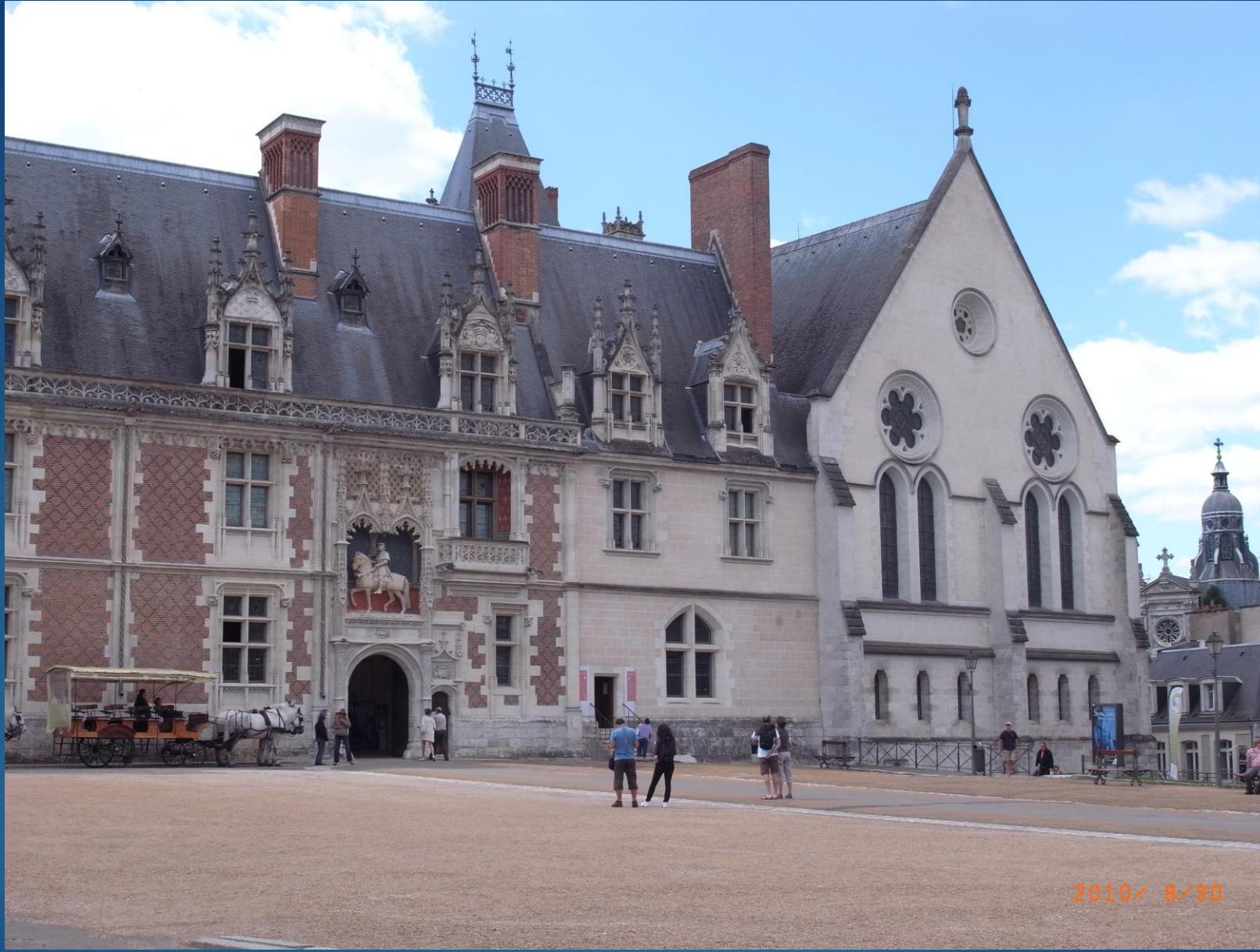


階段を登ってフロア城に  
向かう

ブロワ城はブロワの街の中央にある。16世紀にフランスの首都がパリに移るまでの約100年間、王家の第一城であった。



ブロワ城(フランソワ1世の翼)



ルイ12世王の翼

フロア城の入り口



ルイ12世王の翼

ルイ12世の騎馬像

## 中庭を囲む 建物（4つの翼）



オルレアン公ガストンの翼

フランソワ1世棟

ルイ12世王の翼



フランソワ1世の螺旋階段



オルレアン公ガストンの翼



ルイ12世の翼



フロア城の庭園







サラマンダー (Salamander)

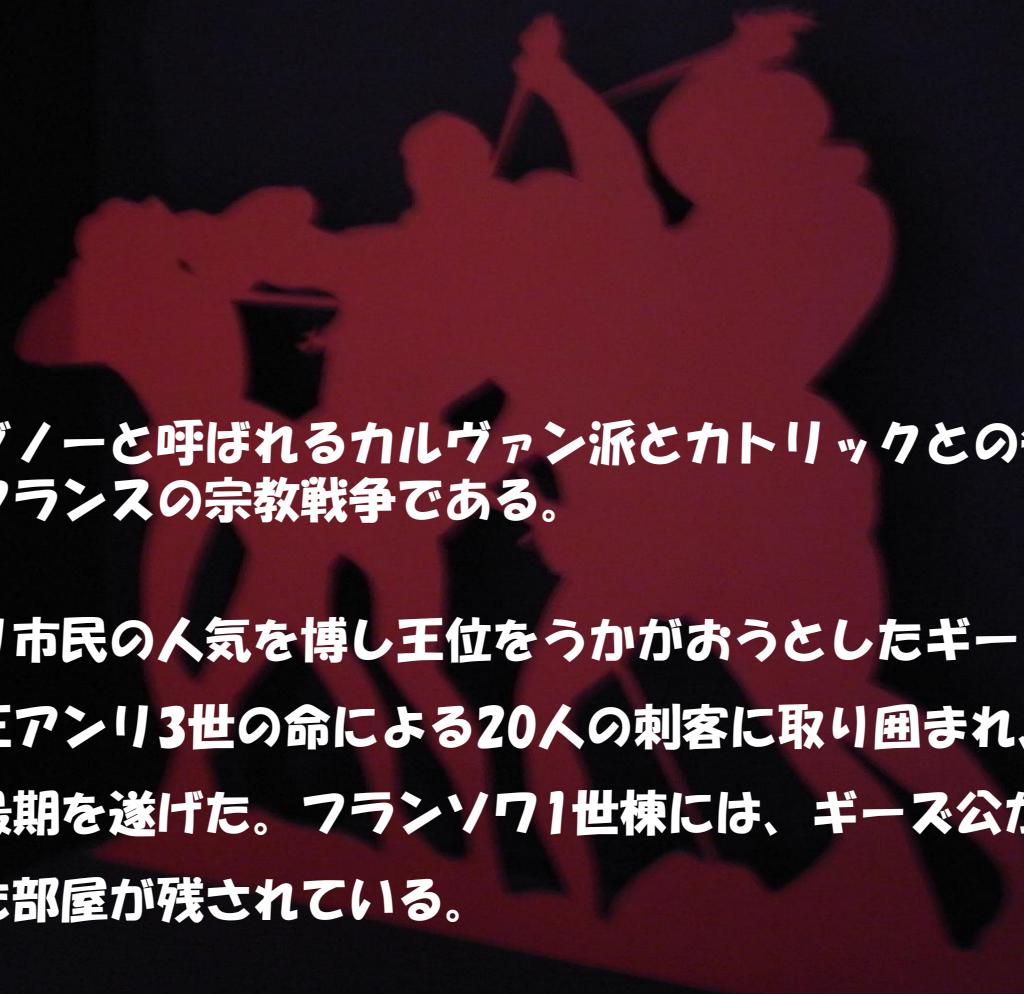
有尾類(有尾目)に属する動物

ランソワ1世の紋章の動物、竜（サラマンダー）。口から火を吐いている。



2010/ 8/30

# アンリ3世によるギーズ公爵暗殺事件



ユグノーと呼ばれるカルヴァン派とカトリックとの争い  
がフランスの宗教戦争である。

パリ市民の人気を博し王位をうかがおうとしたギーズ公は、  
国王アンリ3世の命による20人の刺客に取り囲まれ、あえな  
い最期を遂げた。フランソワ1世棟には、ギーズ公が殺害さ  
れた部屋が残されている。

アンリ3世の時代(1574年～1589年)になると、ギーズ公アンリは、ユグノーの首領であるブルボン家のアンリ(後のアンリ4世)と対抗するカトリックの旗頭として、弟のローラン枢機卿と共に、フランスの政界、宗教界を牛耳る実力者として国王の存在を脅かすまでになった。

1588年12月、ブロワに三部会が召集されたが、ギーズ派はこの会議に多数を占め、数を頼んで王を退位させ、ギーズ公アンリを新たに国王に擁立しようと目論んだ。この計画を知り、恐怖にかられた国王アンリが、これを防ぐ唯一の手段として乾坤一擲、ギーズ公アンリの暗殺を図る。これが、ブロワ城中で行われたギーズ公爵暗殺事件の背景であった。

1588年12月23日の朝はとりわけ寒気が厳しかった。夜を徹して女とすごしたギーズ公アンリは疲れていた。そのせいか寒さが余計身にしみた。ぶるっと身ぶるいをして部屋の片隅の暖炉に」歩み寄ったアンリは、横に積み上げてある薪の2，3本をつかんで暖炉の中に放り込んだ。消えかかっていた燃えさしから、パッと灰と火花があたりに散った。やがて息を吹き返した火種は、パチパチと勢いよく燃え始め、暖炉の上に施された数代前の国王の火トカゲ紋章が、真実火を吐いているように赤く光って見えた。

「閣下、国王陛下が書斎でお待ちです。」という幾分緊張に震えた声を聞いたのは暖炉を背にしたギーズ公が数人の同僚と会議を始めたばかりの時だった。椅子から立ち上がったアンリは窓辺に歩み寄り、勢いよく窓を開け放った。粉雪混じりの冷たい空気が、アンリの火照った顔に吹きつけ、一瞬で眠気がとんだ。外は一面の雪だった。閣議の間を出たギーズ公は、王の寝室を通り王の待つ書斎へと歩いて行った。寝室には数人の王の衛兵がたむろしていた。彼らの目に宿るただならぬ気配に一瞬疑念が走ったが、睡眠不足で思考力の落ちたアンリの脳裏からすぐ消えた。たとえそんな悪条件でなくとも、この2mを越す大男のギーズ公は、そんなことを気にもかけなかっただろう。王の書斎に入るや数人の抜剣した男達の姿が目に映った。「しまった！はかられた！」事の重大さをここで初めて悟ったアンリは、後ずさりしながら部屋から逃れようとしたが既に遅すぎた。数人の兵士がアンリの退路を塞いでいた。「国王があなたのお命を狙っています。お気をつけ下さい。」という忠告が一瞬頭をよぎった。この耳打ちを笑いとばして聞かなかった自分が悔やまれた。数人が一ぺんに打ちかかってきた。とっさに身をかわしたが、幾太刀かはよけきれなかった。夢中で何人かを投げ飛ばしたが、だんだん目がくらんできた。戦いの舞台は王の寝室に移っていた。血まみれのアンリはまるで阿修羅のようだった。しかしさすがのアンリも、多勢に無勢では勝目はなかった。おまけに、不意打ちはくらった時の手負い傷が、だんだんきいてきて、次第に動きが鈍くなってきた。この機を待っていた刺客達は、すかさずギーズ公の心臓に止めの一撃を加えた。それで終りだった。凄惨な大活劇はあっけなく終った。大した時間も経ていなかったが、居合わせた人間にとて、それは途方もなく長い時間のように感じられた。バタバタとした伝令が、成行き如何と息を詰め待ち構えている王のもとに走った。王は息づかいも荒く、緊張に青ざめて足早に入って来た。部屋は乱闘の跡も生々しく、家具類が散乱し、致死引きがあたり一面に飛んでいた。この凄惨な場面に横たわるギーズ公アンリを見下ろしながら、国王は、「うーん何という男だ！生きている時よりもっと大きく見えるとは！」とつぶやいた。その足で国王は母親のカトリーヌのもとに赴いた。過去30年フランスの政治を動かしてきた気丈なカトリーヌも、年老いて死の床に横たわっていた。自分の寝室の真上の部屋で、いましがた行われた大騒動は、天井一枚を通して彼女の部屋に直に伝わってきた。息子のただならぬ様子は、衰えたとはいえ聰明なカトリーヌにその思いを確信させた。「母上、パリ王は死にました。」という息子の簡単な報告を聞いたカトリーヌは、「おまえが無王にならなければいいが…」と答えた。事件の翌日、既に捕らえられていたギーズ公の弟ローラン枢機卿も処刑され、二人の遺体は焼かれ、灰はロワール川に撒かれたという。

カトリーヌの予言と不安は的中し、国王アンリ3世は翌1589年の8月1日、狂信的なカトリック修道士ジャック・クレマンの凶刃によって倒れる。



1588年12月23日にブロワ城で起こった「ギーズ公爵殺人事件」を描いたもの



ギーズ公は当時勢力を広げていて、それを嫌ったアンリ3世の刺客に  
暗殺されたと言われています。  
この絵が掲げられているこの部屋で、その事件は起こりました。



ブロウ城内



2010/ 8/30

ギーズ公爵殺人事件の現場。アンリ3世の放った刺客にギーズ公爵が倒れた





20  
2013/3



フランソワ1世



## フロア城ゆかりの人物

ルイ12世、フランソワ1世、アンリ3世、アンリ4世



フロア城の出入り口付近 場外



マジックの館

フロア城の入り口付近

恐竜が窓から顔を出している建物があった



フロア城の近く聖ニコラ教会

# 列車でカルカソンヌ に移動

トゥール ~ ポアティエ ~ ボルドー ~ トゥールーズ ~ カルカソンヌ



トゥール駅

# ボルドー



ボルドー、サン=ジャン駅の構内。

フランスの大きな都市では、頭端式フォームという車止めのあるプラットフォームが多いが、サン=ジャン駅は通過式フォームである。

# ボルドーで途中下車し 昼食、 乗り換え



ボルドー駅前



駅中レストランで昼食 ペンネを食べた

Il y a plusieurs histoires dans un même petit village.  
Je vais vous les raconter.



ボルドー ピエール橋 ガロンヌ川  
時間がなくてこの橋を見ることが出来なかった

売店で本場のマカロンを購入して試食した。味は  
イマイチ 日本のお菓子の方がずっと美味しい。



ショコラ  
レインフォレストアライアンス認証(※)されたカカオを使ったチョコレートを使用したマカロンです。



ピスタチオ  
香ばしいアーモンドパウダーとピスタチオペーストの風味が香るマカロンです。



ラズベリー  
ラズベリーを15%使用した、甘酸っぱくさわやかなマカロンです。

写真集4

END